

小児外科後期研修プログラム

I. 研修内容

1. 診察
 - 1) 家族歴・既往歴・現病歴の聴取と記載
 - 2) 新生児、乳幼児、学童、思春期の患児の頭頸部、胸腹部、外陰部、四肢の身体所見の記載
2. 検査
 - 1) 胸腹部単純レントゲン検査、CT 検査、MRI 検査、RI 検査などの読影
 - 2) 腹部・体表超音波検査、上部・下部消化管造影検査、尿路造影検査、肛門鏡検査、24 時間食道 pH モニター検査、直腸肛門内圧検査、直腸粘膜生検の実施
3. 手術
 - 1) 予定手術：鼠径ヘルニア（切開法、腹腔鏡手術）、臍ヘルニア手術、停留精巣手術、包茎手術、尿管管遺残切除術、甲状舌管嚢腫切除術、ヒルシュスプルング病根治術、水腎症手術、膀胱尿管逆流症手術、尿道下裂手術、鎖肛根治術（直腸肛門形成術）などに参加
 - 2) 緊急手術：虫垂切除術、肥厚性幽門狭窄症手術、先天性腸閉鎖症手術、新生児消化管穿孔手術、新生児人工肛門造設術などに参加
4. 外科的処置
 - 1) 皮膚切開、排膿、ドレナージ、皮膚縫合、結紮などの習得
 - 2) 中心静脈カテーテル挿入術、ED チューブ挿入術、腸重積非観血的整復術などに参加
5. カンファレンス
小児外科カンファレンス、周産期カンファレンス、小児科カンファレンスに参加

II. 到達目標

1. 1 か月に 20 例以上の小児の診察を行い、15 例以上の小児外科手術に参加する。外科専門医申請に必要な小児外科手術症例数を経験する。
2. 患児および家族と良好な信頼関係を築くことができる。手術を必要とするこどもを持つ両親・家族の気持ちを理解して発言・行動する。
3. 患児の年齢、性別、病歴、身体所見から鑑別すべき小児外科疾患を列挙し、必要な画像検査、内視鏡検査など鑑別診断に必要な検査を選択できる。
4. 画像検査所見を加えてさらに診断を絞り込み、治療方針を考案できる。
5. 患児の病態を総合的に判断して緊急性（待機的治療か緊急手術か）を判断できる。

6. 入院時所見、術前管理、手術所見、術後経過を遅滞なくプログレスノートに正しく記載する。
7. 小児外科における基本的な創処置（縫合、抜糸、消毒など）、ドレーン管理を理解して的確に実施できる。
8. 入院時所見、手術、術後経過を遅滞なく退院記録に正しく記述する。

Ⅲ. 週間スケジュール等

1. 週間予定

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	外来	手術	外来	周産期カンファレンス 小児外科病棟回診	手術
午後	整肢病棟回診 (第2・4月曜) 造影検査等 小児外科病棟回診 小児外科カンファレンス	整肢学園外来 造影検査等 小児外科病棟回診	造影検査等 小児外科病棟回診	手術	外来 小児外科病棟回診 小児外科ミーティング 小児科カンファレンス

2. 学会・研究会

日本小児外科学会学術集会

日本小児外科学会秋季シンポジウム

Pediatric Surgery Joint Meeting (PSJM)

日本小児外科学会近畿地方会

日本周産期・新生児医学会学術集会

日本小児血液・がん学会学術集会

日本小児泌尿器科学会学術集会

大阪小児外科カンファレンス（年 5-6 回）

京都小児外科セミナー（年 4 回）

学術集会発表および論文投稿を行う